

2010医療・介護連携シンポジウム

「口から食べたい」を支える口腔ケアと嚥下リハ ～病院・施設・在宅・デイで出来ることからチャレンジしよう～

とき 8月22日(日)
午後1時00分～4時20分

注：とやま保険医新聞4月号では8／8と
していましたが、変更になっています。

会場 名鉄トヤマホテル
4F 瑞雲の間

参加対象 医療・介護を担う各職種
参加費 無料

要介護状態の患者にとって、口から食べる事、味覚を味わう事が、かけがえのない喜びであり、生きる力を引き出す契機となるのは、論を待たない。しかし、医療・介護現場では、咀嚼機能と嚥下機能の回復を図る取り組みは、一部を除き、後手にまわっているのが現実である。

経口摂取移行への取り組みには、歯科医師による咀嚼機能の回復、歯科衛生士や介護職による口腔ケア、言語聴覚士、看護師による嚥下訓練、栄養士による栄養管理など、多職種の介入と連携が必要となる。

基調講演 (60分)

「各職種が咀嚼・嚥下を一連のシステムとして認識すること」

新潟大学副学長

講師 山田 好秋 先生

シンポジウム (70分)

富山大学名誉教授

座長 鏡森 定信 先生

- ① 在宅医師の立場 小川 滋彦氏 (石川県保険医協会・学術保険部長)
- ② 在宅歯科医師の立場 小林 岳志氏 (小林歯科医院・富山市)
- ③ 訪問看護師の立場 岩原 裕子氏 (砺波市訪問看護ステーション)
- ④ 歯科衛生士の立場 坂口 奈美子氏 (済生会富山病院)
- ⑤ 言語聴覚士の立場 亀谷 浩史氏 (富山協立病院・富山市)

フロア討論 (60分)

会場展示

- ・嚥下機能低下患者向けの流動食・輸液・ゼリー食品、器具他 (大塚製薬)
- ・口腔機能低下患者向けのケア器具他 (各社)

後援 (依頼中を含む)

富山県、富山市、県医師会、県歯科医師会、富山市歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会、県社会福祉士会、県介護福祉士会、県言語聴覚士協会、県作業療法士会、県理学療法士会、県栄養士会、県歯科衛生士会、県歯科技工士会、県介護支援専門員協会、県ホームヘルパー協議会、県医療ソーシャルワーカー協会、県慢性期医療協会、県介護老人保健施設協議会、県老人福祉施設協議会、県社会福祉施設経営者協議会、県訪問看護ステーション協議会、県デイサービスセンター協議会、県地域包括・在宅介護支援センター協議会、県医療福祉施設事務長会

NHKクローズアップ現代「どう支える高齢者の食」に解説者として出演した山田先生



同番組で金沢市のチーム
医療の取り組みを紹介す
る小川先生

本年三月四日、「どう支える
高齢者の食」と題するNHKク
ローズアップ現代において、私
ども金沢・在宅NST研究会
「経口摂取相談会」の取り組み
が紹介された。
放送では、八十歳男性
性が一年に亘るリハビ
リテーションの結果、
ご家族と研究会スタッフ
の見守る中、満面の
笑みで経口摂取する様
子が印象的で、口から食べる素
晴らしさが伝えられた。しかし、
それ以上に在宅医療が「看取り」
の場ではなく、在宅でも元気に
なれること、すなわち「社会復
帰」であることが伝わったので
はないか。廃用のため拘縮した
全身をほぐして座位保持訓練を行
い、首から上の自由度を確保し、
嚥下力を高める。そのため

**メッセージは「社会復帰」と
しての在宅医療**

石川県保険医協会理事 小川 滋彦
「在宅医療とは社会復帰であ
る地域の多職種が集まつてくる。
影で支える胃瘻栄養があり、そ
れを緻密に管理する栄養士がい
る。「在宅医療とは社会復帰であ
れば、地域連携は一気に進む。本シンポジウムでは、そ
いつた「共通の目標」が認識さ
れることを望む。」

「共通の目標」なる。在宅で元
氣になるという
充のチャンスと
栄養事指導な
どの社会資源拡
在宅リハや訪問
院が患者を退院させやすくなる。
る」というメッセー
ジが社会に
伝わると、地域医療全体が元気
になる。一般社会の在宅医療へ
のイメージがアップすると、病
院が患者を退院させやすくなる。
「共通の目標」が認識さ
れることを望む。